

広島県知事賞



第13回 ひろしま 
住まいづくりコンクール
2022 作品集

「ひろしま住まいづくりコンクール」は、
住む人の笑顔とプロフェッショナルたちの成果を広く伝える場所です。



主催 広島県
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

広島県、呉市、福山市、三次市、東広島市、廿日市市、
(独法)住宅金融支援機構中国支店、(公社)広島県建築士会、
(一社)広島県建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会中国支部、
(一社)広島県建築センター協会、広島県住宅産業三団体協議会、
(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部



後援 中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、
広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、国土交通省中国地方整備局

事務局 ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
「ひろしま住まいづくりコンクール2022」事務局

(公社)広島県建築士会 事務局
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL082-244-6830代

新築部門



空き家再生
部門



リフォーム
部門






INDEX


01-02  広島県知事賞
M House
原田 直実さん【原田直実建築設計事務所】

03-04  新築部門 最優秀賞
House F
藤森 雅彦さん【藤森雅彦建築設計事務所】


05  新築部門 優秀賞
自然と暮らす家 ー“緑の間”を通り抜ける『微気候』ー
鍵山 昌信、浅津 真吾さん【アティエ環境建築設計事務所+asazu design office】

06  新築部門 優秀賞
中野の家
伊瀬 和裕さん【樹テラワークス】

07-08  空き家再生部門 最優秀賞
古さが活きる瀬戸霧の家
永本 清三さん【永本建設株】

09  空き家再生部門 優秀賞
庭とつながる暮らし愉しむ家
田辺 靖子さん【さくら建設株】

10  空き家再生部門 優秀賞
大阪から広島へ移住 ～古民家購入からの再生～
若松 敏貴さん【南道建設】

11-12  リフォーム部門 最優秀賞
「その先」を感じる住まいに。
西田 寿美世さん【樹大之木ダイモ】

13  リフォーム部門 奨励賞
魅力を再発見リノベ ～受け継いだ商家の古民家～
山口 明知さん【樹トータレリフォームセンター】

ひろしま住まいづくりコンクール2022 その他の応募作品

本作品集に掲載の1㎡当たりの工事費の目安については、次の点に注意して参考にご覧下さい。
※外構工事費は含まれていません。
※リフォーム部門・空き家再生部門の作品は工事床面積、新築部門の作品は延床面積を基準としています。

～ごあいさつ～

皆様が住まいに求めるものは何でしょうか。使い勝手の良さ、心地よい肌触り、安全性、思い出の継承…など、様々な想いがあると思います。

住まいのイノベーション(技術革新)や、中古住宅のリノベーション、空き家の増加など、時代とともに「住まい」にまつわる課題や、求められるものは変化していきます。今年はG7サミットが広島で開催され、世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題を始めとするその時々国際社会における重要な課題について、自由、人権などの基本的価値を共有する各国の首脳が意見を交わします。気候や文化風土は異なっても、時々の変化を取り入れながら住み手の理想の暮らしに寄り添っていくという「住まい」の存在は、世界共通の価値であると思います。コロナ禍が丸3年を過ぎ、国際的な往来も再開しつつある今、「ひろしまの住まいづくり」とはどのようなものなのか。あらためて考える機会と言えるのではないのでしょうか。

ひろしま住まいづくりコンクールは、住み手のライフスタイルを形にした、いつまでも広島県に住みたいと思える魅力のある住まいづくりの発見をめざしており、住み手の住まい方にも着目して審査しています。平成22年(2010年)に始まり、今年度で13回目を迎えたこのコンクールには、28作品(リフォーム部門4作品、新築部門18作品、空き家再生部門6作品)の応募をいただき、審査委員会による厳正な審査の結果、広島県知事賞をはじめとする9点の受賞作品を選定いたしました。

このような魅力ある住まい方をかなえる住まいづくりは、将来に渡って広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと思えるような、皆様の充実したライフスタイルの実現の一助となることでしょうか。

このたび広島県知事賞を受賞した作品は、親子2世帯が暮らすための新築の住宅で、周囲からの視線に配慮した囲まれた外観と、自然の光を取り入れるようにプランニングされた室内と庭の繋がりによって、開放感と安心感を同時に得ることができます。また、建物の中心に2世帯共有の中庭が設けられ、囲まれた路地のような空間がお互いの気配を感じさせ、それぞれの世帯にちょうど良い距離感を生み出している作品です。

また、各部門の最優秀賞には、マンションの一室という、限られた広さの中で、家事負担を軽減する動線の確保と広々とした空間に住みたいという住み手の要望を両立させたリフォームの作品、建物に凹凸を設け、それを自然光や風の通り道として機能させることで居住性、快適性を実現しつつ、周囲の住宅に馴染む佇まいを生み出した新築平屋の作品、そして瀬戸内海を一望できる空き家をどのように残し、どのように住まうか、施主、設計者、施工者が丁寧に対話を重ね、既存の木組みを現しながら断熱性と耐震性を向上させる等、これからの年月を末永く快適に暮らせる住まいとして築80年の空き家を再生した作品が選ばれています。

この作品集では、受賞した9作品について、「住まいづくり」に対する住み手の理想や希望、設計者や施工者等のノウハウや創意工夫、住み手と創り手がともに創り上げた「住まい」をまとめております。皆様の住まいづくりの参考となり、魅力ある住まい方の実現に向けたきっかけとなれば幸いです。

最後に、このコンクールに応募いただいた多くの皆様、厳正な審査をしていただいた栗崎委員長をはじめとする審査委員会の皆様、そして、御協力いただいた関係団体の皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

広島県都市建築技術審議官 高橋 政則

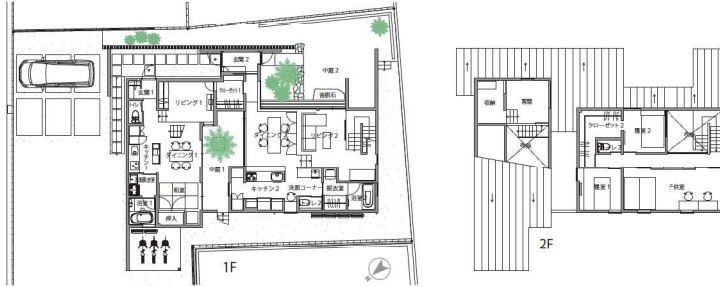


M House

広島市



リビングとダイニングの段差は、緩く空間を仕切りながら、ベンチとしての役割も生まれる。



シンプルな外観と、緑で敷き詰められた芝との対比によって、緩く周囲に溶け込む。



木現しの天井面に反射した光が柔かく下の空間に届いていく。



玄関から少しずつ床が上がり開放感が増していく。



夜はスポットライトによって植栽を照らし、天井に映る陰影を楽しむ空間となる。



キッチン収納は、調理しない時は全て隠せるデザインとなる。



深い軒と天井面を合わせることで、より奥行きが感じられると共に、囲まれるような安心感が生まれる。



縁側と再利用した畜産石・石積みは、世代を超えて場所の記憶を受け継ぐ。

選評 審査委員 山田孝延

広島を中心に近い住宅地に建つ二世帯住宅である。南と西を事業所と集合住宅に囲まれた敷地条件を逆手にとり、親のすまいと程よい距離を保つ中庭と外光が降り注ぐ庭を設け、居心地の良いスペースを計画している。床と腰壁の木と漆喰壁を組み合わせたシンプルな意匠で統一しているが、吹き抜け、床の高さの違い、窓辺の腰掛け等、視線の高さ操作により多様な光景を展開する豊かな住まいを実現している。都市型住宅の範になる優れた住宅である。

選評 審査委員長 栗崎真郎

親子世帯の各住居がアプローチを共有しながら配置され、その間の中庭が程よい距離感をつくり出している。平面的にコンパクトにまとめられている一方で、床レベル天井高さ開口の位置がスケール良くきめ細やかに設定されており、それぞれの空間が少しずつ変化しつつ緩やかに繋がって心地よい。親子両世帯が独立性をきちんと確保しながらも、お互いを感じながらの生活が実現されている二世帯住居のつくり方を提示している。



キッチン横に水廻りをまとめることで、機能的な家事動線としている。



リビングから縁側の繋がりが、内外の関係を曖昧にする。

創意工夫点 (原田直実さん)

閑静な場所に位置する二世帯住宅の計画である。周囲に高い建物もあるため、季節により様々に変わる光の入り方をプランしながら大小のボリュームを立ち上げ外部にできる間と内部との繋がりを計画した。共有の中庭を建物の中心に設け、囲まれた路地のような空間がお互いの気配を感じさせる。庭と庭をすり抜ける玄関からリビングへの繋がりは、全面開口としながら抜ける開放感と囲まれる安心感が同時に得られる空間となっている。

建築主	非公表
設計者	「原田直実建築設計事務所」 TEL(082)2755215
施工者	中川玉雄さん 「建築ながわ様」 TEL(082)20885222



南側に面したリビングには、大きな窓を配し、一日中、日の光が注ぐ明るい空間となっている。北側に配置した和室にもハイサイドライトによって、南からの明るい光が注ぐ計画となっており、どの部屋からも空を見上げることのできる計画。



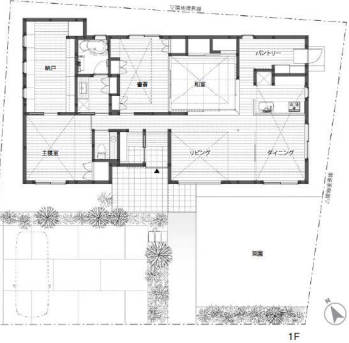
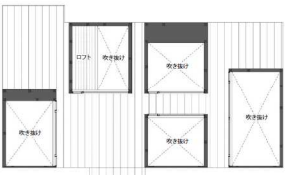
これまでの生活リズムや日々の生活動線、ライフスタイルを大きく変えることのない平面計画としながらも、くほみを空間に取り込むことにより、より豊かな生活を生み出している。



4.15mの高天井にあるハイサイドライトの一部にジャロジーを組み込み、開閉によって部屋の上部に溜まった熱を排出できる仕組みとなっている。春秋の中間期には窓を開放することで、室内に風が抜ける心地良い空間となる。



居室間の建具に引戸を多用し、冗長性のある空間を目指した。



以前住まわれていた住宅の和室で書斎として使用されていた組子を可動パーティションの一部として組み込むなど、新たな住まいへの記憶の継承を図った。



各部屋に設けたハイサイドライトにより、時間の変化によって刻々と変化する光の変化を楽しむことができる。



ベースとなる照明は原則間接照明とし、柔らかな光の中でゆっくりと過ごせる計画とした。夜には、ハイサイドライトから内部の光が滲み出て、暮らしの気配を感じることができる。



北側に配置した書斎でありながらも、ハイサイドライトにより日が差し込み明るい空間。

創意工夫点 (藤森雅彦さん)

クライアントからは諸条件とともに平屋建てであることが求められた。敷地の周辺は2階建ての住宅が多く、時折中高層のマンションなども点在している。要望である「平屋」というボリュームは、周辺との関係性や文脈がくくりにくいのではないかと感じ、周囲と同等のボリュームを設定し、そこから不要部分を切り取ることで、空間を生成していく手法を試みた。

切り取った凹部は、光や風を取り込む環境装置、そして、大らかな気積を緩やかに区切る間仕切りとしても機能し、明るく風通しのよい空間を実現した。住まいとしての根幹である居住性・快適性を優先した平面計画としながらも、凹を空間に取り込むことにより、より豊かな生活を生み出すことができたのではないかと思う。



東側に設けたハイサイドライトから朝日が差し込む。



周辺環境を読み込みながら全体を構成していくことで、周囲との調和と新たな内外空間の創出を目指した。

選評

審査委員 蔽根拓
郊外の交通量が多い道から一本中に入った住宅街に佇む平屋作品である。白の単調さに変化を付ける屋根の凹凸は、天井側面の窓から光を入れながらも周囲の高い建物からプライバシーを守る構造となっている。特に玄関上の凹部分を広く取り、西側の部屋に朝日が差すよう工夫した。また以前の建物の欄間やテーパーは袖壁などに形を変えて、施主の思い出も残されている。今後の平屋計画における好事例である。

選評

審査委員 山田孝延
上部を突き取り凸凹した箱に穿たれた大きな窓。ぶっさらばっつな外観だが、素材や形が異なる周囲の賃貸住宅と連続して統一した街並み景観を作っている。リビング、ダイニング、和室などの水平的な体となったスペースを天井高さの違いとトップサイドライトからの光により各領域を分割しテリトリーを定めている。通常の壁や建具により部屋を区切る計画と異なり、断面の操作による計画手法を用いた、伸びやかなオリジナリティの高い優れた建築である。



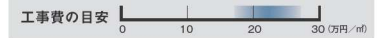
背景の山々と同化するような山型フレームが特徴の外観。前庭も起伏のある外構を施し自然が連続する。



塀を薪割でつくことで緩やかに領域と視線を仕切り、自然と暮らすための機能と意匠を構築した。



家族がいつも顔を合わせるような中心に配置した「縁の間」。風や光の抜ける山型の大きな吹抜け空間。



建築主	非公表
設計者	鎌山昌信さん 十浅津真吾さん 「アライエス環境建築設計事務所」 +sasaki design office
TEL	(082) 42337778
TEL	(082) 42337778
施工者	本田博史さん (ギリノ木材株式会社)
TEL	(082) 9308840
TEL	(082) 9308840
企画立案者	設計者と同じ
設計者	設計者と同じ

創意工夫点 (鎌山昌信さん)

周囲に山で囲まれたこの住宅では、稜線をトレスしたような山型の木架構で生活空間を包み、現場で搬出した石や土を活用した自然な起伏をもつ外構デザインを共生させることで、近景・遠景がつくる自然環境の部に溶け込むように創られた。家の中央には家族が集う「縁の間」を計画し、設備室や個室はその周囲に隙間を空けて配置することで視線や光風が抜ける「通り道」を用意した。隙間は程よい距離感を生み、家事動線を最小限にしながら回遊性が高く、限りなく外部環境に近い自然を取り込む空間を目指した。

選評

審査委員 高橋 傑

周囲を山で囲まれた中に佇む山小屋風の住宅で外部へ庭と土間と繋いだ空間が室内に居ながら自然を感じられるように外に開いた住環境を創出している。山風を感じられる室内は、家族が集まる「縁の間」を中心に個室とキッチンが周りに配置されており、動線拒絶への配慮とともに、家族内の繋がりにも好影響を与えている。多様な利用方法が考えられる大きなラフトをはじめ、シリンダの中に家族の様々なニーズを受け入れ、いくつくりと作り、自然環境と調和しながら家族の成長とともに住宅も成長していく可能性を感じる豊かな住まいづくりの好事例である。



LDKから主庭を望む。この家全体を包み込む切妻屋根は遠く東に見える山々の稜線に沿うような屋根勾配とし、リビングの窓に切り取られた景色はこの家だけの絵画のようにも見える。



北面屋根に設置した天窗により、十分な通風と採光を得られたキッチン。食卓、書斎コーナーへの動線も確保。



青の高い板棚で囲まれプライバシーをしっかりと確保した中庭。



西側前面道路からの外観。低く構えた切妻屋根をベースとした外観は周辺への圧迫感を軽減している。



小上がりの畳をベンチ代わりに設けた食卓エリア。主庭とつながる窓により心地よい光と共に食事を楽しめる。



建築主	非公表
設計者	伊瀬和裕さん (株式会社ワークス)
TEL	(084) 9999717
TEL	(084) 9999717
施工者	設計者と同じ
企画立案者	設計者と同じ

創意工夫点 (伊瀬和裕さん)

南北に約10m、東西に約35mと細長い敷地形状の持つポテンシャルを活かし、快適に暮らせる住環境を作り出すため、約26mの長さの切妻屋根を架けその下に住まいと暮らしをつなぐ3つの庭を考案した。必要とされる要素を満たすためその庭を操り、住まいと繋ぎそれぞれの役割を持たせることで快適な住環境を構築している。シンプルな構造によつてつくられた建築であるが、多様な空間を生み出すことに成功した。

選評

審査委員 福山雅也

周辺環境にうまく溶け込んだ佇まいからは、設計者のこの地域に対する配慮が伺えた。室内は木がふんだんに使用され、特にリビングは屋根形状に合わせた斜め天井とすることで、ほっとしたスケール感を持つ心地よい居場所を作り出している。また、高断熱性能を確保するための工夫や、3つの庭をつくるなど、この家の豊かさが感じられる。街中から離れた地に自然を感じられる住まいを作りたいという住み手の想いを、細長い敷地形状を上手く利用し、こころやかな個性豊かな空間を実現させた優れた住宅である。

古きが活きる瀬戸霧の家



キッチン、バック収納棚はオーダー品。吊戸棚は大工の造作とした。材質を合わせることで違和感なく馴染む。



不要となった洋室はビルトインガレージへと変更。アウトドア用品を収納できるよう造作棚を設けた。



before

after

古民家特有の間取りを大胆に変え、元は仏間であった場所を大空間のLDKに変更した。



after

before



日本家屋の持つ良さを生かし、焼杉の外壁を継承。さらに雨に濡れず車に乗れるようカーポートを新設した。



before



眺めの良い寢室の一角にはワークスペースを造作。海を望む静かな環境で落ち着いて仕事ができる。



胎色に変化した古材の経年美を活かし、大工の細やかな手刻みによって新たな材と古い材とを融合させた



暖気を循環させるため、1階天井から2階寝室壁へ抜ける小窓を計画。施主のアイデアが随所に活かされている。



実家でも使っていたことから薪ストーブの魅力は了解済みだったといい、新居にも迷わず採用。

江田島市

創意工夫点 (永本清三さん)

穏やかな瀬戸内海を望める立地を活かし、南側の開口を中心に間取りを計画。内部の構造体をスケルトンにすることで基礎を含めた構造補強を明確にした。どの材をどう残すか、構造上どこを補強すべきか、そのひとつずつを施主と対話しながら、施主設計施工それぞれの立場で慎重に判断を積み重ねた。既存の立派な木組みを現しながら、断熱性・耐震性も向上させ、未長く快適に暮らせる住まいを目指した。

建築主	非公表
設計者	永本清三さん (永本建設)
TEL	(0829) 316655
施工者	永本和磨さん (永本建設)
TEL	(0829) 316655
企画立案者	永本和磨さん (永本建設)
TEL	(0829) 316655

選評 審査委員 瀬崎敏正

瀬戸内海を見渡せる景観を有する築80年の空き家を改修した事例である。既存の木組みを現しながら断熱材の吹き付けやベタ基礎補強を行う住居の基本性能を高めており、地域材や無垢材を使用した新旧調とした温もりを感じさせる住まいとなっている。また不要になった洋室をビルトインガレージに変更するなど施主のライフスタイルに合わせた暮らしやすさに配慮したり、ペーンションの好例である。

選評 審査委員長 栗崎真郎

江田島の海を望みながらスローライフを営むという建築主の夢と、それを受け止める丁寧な根拠強く実現した工務店の協働が、築80年で5年の間空き家だった住宅を蘇えらせた好事例である。基礎柱の構造的補強、断熱改修の堅実さだけでなく、天井裏の小屋根を露しと珪藻土壁の左官技術の調和、キッチンなどの造作家具のつくり込みなど、長い間に培われた担当工務店の総合的な技術力は特筆すべきところがある。

庭とつながる暮らしし愉しむ家

福山市



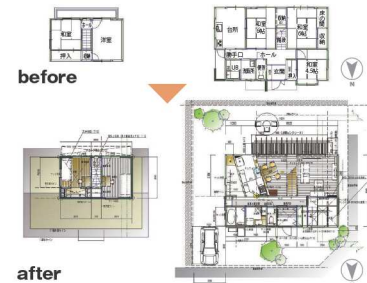
以前は3部屋に仕切られていた間取りから広いリビングダイニングに。さらにウッドデッキを設けより広い空間となった。



玄関横のアプローチになる間に木製窓を取付け、玄関まわりに表情が生まれた。



つい寝ころびたくなる気持ちのよいウッドデッキ。家族の憩いの場となった。



工事費の目安 0 10 20 30 (万円/㎡)

創意工夫点 (田辺靖子さん)
お施主様家族はアウトドア好きで、リビングと庭を一体考えた暮らしをしたいと75坪の広い土地の中古住宅を購入された。和室の多い築44年の中古住宅を長期優良住宅化リフォームに沿って、耐震性、省エネ性を確保。
「一番明るく採光が入る南面にリビングダイニングを配置し、外部に向けてのつながりにウッドデッキを設け内外のつながりを感じられる。庭とつながる暮らしを実現した。」

建築主	甲斐勇之介さん
設計者	田辺靖子さん (まくら建設)
TEL	0849431757
施工者	設計者と同じ
企画/審査	設計者と同じ

選評 審査委員 嶋弘明

築44年の空き家再生の事例であるが、特筆すべきは国補助制度を活用した耐震性や維持管理等の性能向上だけでなく、サジの取替や塗装等による外観改修により、全てが新築と同様の仕上がりを見ている点にある。そこに豊かな暮らしを楽しむための工夫として、キッチンを壁方向に斜めに設置する事で、コンパウトを床面積にも関わらずLDKとデッキ、広い庭の一体感と素晴らしい空間の広がりを生み出している。この家は言い換えれば究極の新築コスト削減策(解体費用も不要)により新築と同様の価値を享受した好事例と言える。

北広島町

大阪から広島へ移住
古民家購入からの再生



左官、塗装を塗り替えている。既存建具、下地窓などの状態の良いものは一部修繕し再利用することで、既存の建具が綺麗に映る。



元々必要最低限のキッチンとなっており、現代の生活には不十分な状態であった。施主様たつたの希望があったこだわりの対面キッチン。



洗い出し仕上げの土間が味わいのある玄関を演出。下駄箱や玄関建具も職人の造作である。



南側に配したリビング。既存建具や鴨居等を再利用し、新旧が調和したしつらえとなっており、くつろげる空間になっている。

工事費の目安 0 10 20 30 (万円/㎡)



工事費の目安 0 10 20 30 (万円/㎡)



薪ストーブを取り次りの間に中心に配置し、この建物の象徴としている。二部風の和室を一つの空間にしてフロアリングと大谷石を振り、落ち着きのある空間に。

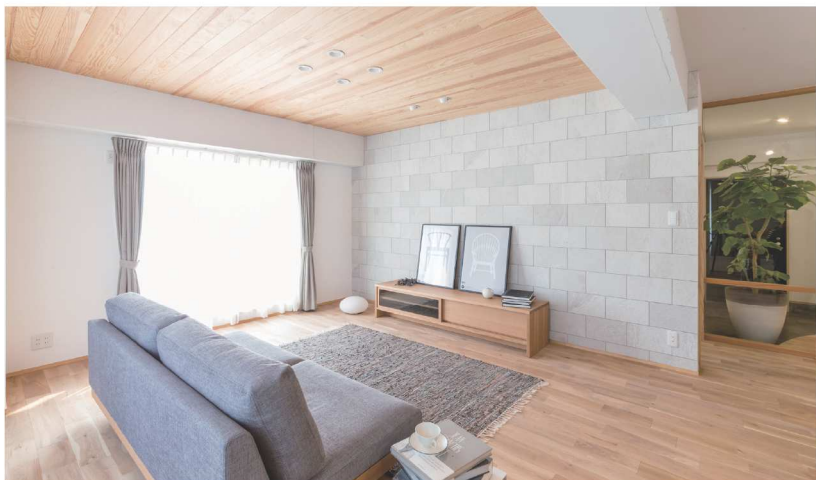
選評 審査委員 藪根 拓
広島は自然豊かな地域に移り住む為、空き家バンク制度を活用した事例である。元々ある組子や障子のガラスを残し、新しい建具や現代の照明と組み合わせるなど、新旧を上手く共存させた。薪ストーブを家の中央に設置し室内を暖める効果も上げ、床は面を支える方法で強度を上げた。庭の作業で汚れても直接洗面室に入られるよう玄関内にも工夫が見られる。建て替えてはよく、改修により見事再生させた好事例である。

建築主	非公表
設計者	道本 聡さん (尚道建設)
TEL	0822326483
施工者	若松 敏貴さん (尚道建設)
TEL	0822326483
企画/審査	設計者と同じ

創意工夫点 (若松 敏貴さん)

広島県出身で大阪在住のご夫婦が早期退職を決定、広島で古民家を購入し、再生計画の相談をいただいたところから始まった。
全体的な風合いやデザインは任せられ、基調とした薪ストーブのある暮らしをコンセプトにプランした。具体的なプランニングは住宅メーカー勤務の御主人の要望となっており、薪ストーブを玄関間から取次の部屋に配置する提案は施主に驚かれたが、寒冷地域における温度環境のバリアフリー化という設計主旨を理解いただき施工し、実際に使用していたことから喜びの声をいただいた。

「その先」を感じる住まいに。



寛ぎのスペースとして天井を板張り。木の温かみで落ち着き感を出した。目地は外へ向けて視線を外に。



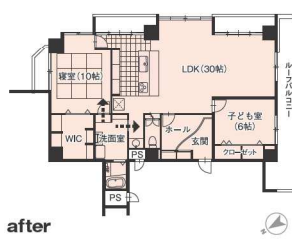
左奥のドアから直接洗面室、そしてキッチンへ。右奥は隣家に接している為、生活音を考慮してWICに。



壁と天井はスケルトンにして新設、梁はコンクリートを塗装して新築には出せない荒さと素材感を出した。



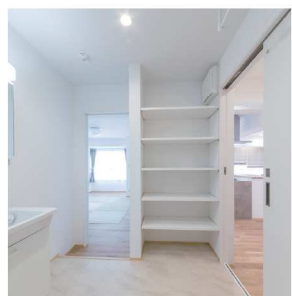
広さと解放感を感じる為に、正面の窓を利用して、玄関ドアを開けた時に視線が窓の外に向くようにした。



after



before



家事が時短できるよう、洗面室を介してキッチン、寝室、WICへ。動線を極力短くし、回避性を持たした。

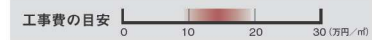


after

キッチンの奥、ゲスト用手洗いを挟んでトイレと洗面室。洗面室は家族用で寝室・WICへ繋がる。



ガラス張りの玄関ホール。LDKからの視界も行き止まらず、少しでも広さを感じるように。



選評 審査委員 原 正

LDKと玄関ホールの間仕切りがガラス張りを加える事によって、視線が抜け玄関に入った瞬間、マンションの中とは思えない程の空間が広がります。窓の外の景色も取り込んだLDKは見た目よりも広く感じられ、水回り、寝室への動線もショートカットに整備され使いやすい住まいにリフォームされています。特に南戸内海は心を感じてくれて一緒に育っていく住まいです。

選評 審査委員 井本 健一

改修対象の適切な選択と既存の設備をうまく生かすことにより、リースナブルに築36年のマンションに新しい生命を吹き込んでいる。機能的な動線の確保と、将来計画に向けた広いスペースづくりを念頭に、視線の抜けによる空間の広がりが感じられることに成功している。特に玄関ドアを開けた瞬間、ゆったりとした玄関ホールからリビングの窓を通して遠くの山並みまで視線が広がる解放感を演出できた好事例である。



下駄箱は間接照明と足元を浮かして床面をできるだけ見せることで少しでも広さを感じるように。



before

創意外夫点 (西田 寿美世さん)

レストラン経営をされているご夫婦が思い描く将来：今の「その先」のために求められたことは、広さ。眺望の良さ、窓の位置大きさなど住まい自体のスペックと、優先したいことを反映した間取り。そして視線を「その先へ抜くためにガラスを使うことで、実際の面積以上に広さを感じるよう工夫した。また、断熱材を入れるなど居住性を向上し、更に共働き夫婦の家事負担軽減のための動線にも考慮した。

建築主	非公表
設計者	山中 信弘さん [株大之木ダイエー] TEL(0823)2111413
施工者	山口 孝則さん [株大之木ダイエー] TEL(0823)2111413
企画立案者	西田 寿美世 [株大之木ダイエー] TEL(0823)2111413

呉市

第13回 ひろしま住まいづくりコンクール2022

〈その他の応募作品〉



真亀の家 新築工事

広島市
設計者 宮崎 達也さん 宮崎環境建築設計事務所
施工者 曾根川 泰司さん 株式会社曾根川施工
企画立案者 設計者と同じ



中庭のある家

広島市
設計者 樹田 健広さん 株式会社トランスデザイン
施工者 岡部 淳子さん 株式会社トランスワークス
企画立案者 設計者と同じ



vertical house 一窓から考える家

広島市
設計者 松岡 弘之さん 株式会社トランスデザイン
施工者 河名 純一さん 株式会社トランスワークス
企画立案者 設計者と同じ



赤い扉の家

福山市
設計者 今城 朋子さん
施工者 設計者と同じ
企画立案者 設計者と同じ



空き家バンクから古民家を購入し再生

東広島市
設計者 道本 聡さん ㈲道建設
施工者 山本 慧さん ㈲道建設
企画立案者 設計者と同じ



空き家になっていた祖父母の古民家を再生

安芸郡海田町
設計者 道本 聡さん ㈲道建設
施工者 山本 慧さん ㈲道建設
企画立案者 設計者と同じ



こだわりのキャンプギアに囲まれた家

広島市
設計者 花井 佳代さん 株式会社ハウジングネットワン
施工者 設計者と同じ
企画立案者 設計者と同じ

応募作品のうち、
応募者の方の了解を得られた
作品のみ掲載しています。



after

縦に並ぶ三間の和室と床の間、廊下を明るくLDKに、補強を加えて視界を遮らないワイドなワンフロアを実現。



before

奥様がいたら便利
とお考えだった、裏
玄関。土間は建具の
代わりにアールの
垂れ壁を採用。

ダイニングキッチンだった場所は、
嫁いだ嫁様家族がゆっくり
過ごせるゲストルームに。



before



after

元納戸部分に裏
玄関を設けるプラン。
勝手口を兼ねた家族
専用の出入り口に。



LDKに一番近い場所に、車椅子でも入れる広さで増設したトイレ。



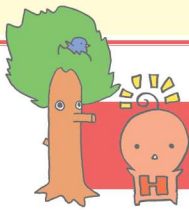
創意工夫点 (山口明知さん)
築約100年の商家の古民家。和室三間を繋げてLDKにしたのが要望で、構造を調べて補強など施し大空間を実現。そしてLDKに近い場所に車椅子でも入れる広さでトイレを増設した。
また、裏玄関を設けたいとの事で元納戸部分に設ける事を提案。キッチン裏のパントリーまで土間を広げ、買物の荷物もすぐ置ける勝手口を兼ねた家族専用の出入り口に。元DK部分にゲストルームを設け、赤ちゃん泣いても気兼ねなく過ごせる空室に。

企画立案者	施工者	設計者	建築主
山口明知さん TEL(0822)5077008	白井政範さん 株式会社テリフォームセンタ TEL(082)5077008	外木清子さん 株式会社テリフォームセンタ TEL(082)5077008	非公表



魅力を再発見リノベ
受け継いだ商家の古民家

東広島市



ひろしま住まいづくり コンクール2022 概要

趣旨・目的

住まいづくりの現場で日々生み出されている、建築主の想いや事業者の創意工夫にあふれた住まいは、これから住まいづくりをする人にも、とても参考になるものです。
このコンクールは、優れた住まいづくりを表彰し、住まいづくりの見本・参考事例として広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。
耐震や省エネルギー、本県の地域性などに配慮しつつ、建築主の求めるライフスタイルを形にした、新しい「ひろしまの住まいづくり」が発見できることを期待しています。

スケジュール

エントリー登録受付期間	令和4年7月19日～8月31日	最終選考	令和4年 12月6日
作品応募受付期間	令和4年8月1日～8月31日	結果発表	令和5年 1月19日
書類審査	令和4年 10月5日	表彰式	令和5年 3月下旬
現地審査	令和4年 11月15日、16日	受賞作品展(県内各市町)	令和5年 4月～約1年間

審査委員会 (敬称略)

委員長	栗崎 真一郎	[広島工業大学 教授]
委員	高橋 傑	[(独法)住宅金融支援機構 支店長]
委員	井本 健一	[(公社)広島県建築士会 会長]
委員	福山 雅也	[(一社)広島県建築士事務所協会 副会長]
委員	山田 孝延	[(公社)日本建築家協会中国支部 表彰委員長]
委員	原 正	[(一社)広島県建築センター協会 理事長]
委員	瀬崎 敏正	[広島県住宅産業三団体協議会 (一社)広島県住宅産業協会 理事長]
委員	藪根 拓	[(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部 広報渉外委員]
委員	的場 弘明	[広島県 総括官(建築技術)]

審査の流れ

- 書類審査** すべての応募作品について書類審査し、入賞候補作品を選定
- 現地審査** 入賞候補作品について、現地にて施工状況の審査や、ヒアリング等を実施
- 最終選考** 書類審査及び現地審査に基づいて、入賞候補作品の中から各賞を決定(今回はWebを活用)



書類審査



現地審査



最終選考(Web活用)

審査の観点 応募作品を次の観点から総合的に審査し、賞を選考

共通の観点

- 一般家庭で見本となる工事内容や価格で、いつまでも広島県に住みたいと思える魅力ある住まいづくりを実現している。
- 設計や工事の過程で生じた困難や問題を、創意・工夫や技術力によって解決している。

新築の観点

- 高い省エネ性、耐震性、耐久性などを備え、長期にわたって活用することが可能な良質な住宅である。
- 県産材や自然素材の利用、地域や街並みとの調和、健康で快適な居住環境の実現など、多様なニーズに対応している。

空き家再生の観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 新たな居住者が、地域の気候風土やロケーションを生かし、自分らしいライフスタイルを実現している。

リフォームの観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 住まいに対する居住者の想いへの配慮、世代や世帯構成の変化への対応、自分らしいライフスタイルの実現など、多様なニーズに対応している。

応募総数 28作品(新築部門18作品、空き家再生部門6作品、リフォーム部門4作品)

表彰作品

- ◎ 広島県知事賞 1点
- ◎ 新築部門 最優秀賞1点 優秀賞2点
- ◎ 空き家再生部門 最優秀賞1点 優秀賞2点
- ◎ リフォーム部門 最優秀賞1点 奨励賞1点

コンクール応援隊は、ひろしま住まいづくりコンクール2022 を応援しています。



コンクール応援隊に関しては、広島県住宅課にお問い合わせください。